

	課題分析	授業改善策
1年	・基礎的、基本的な学習の定着に個人差があり、濁音と半濁音の読み書きや、助詞の正しい使い方の定着が不十分である。 ・算数の足し算、引き算では2割程度の児童が学習内容の定着が不十分である。 ・友達に考えを伝えることが難しい児童がいる。	・連絡帳やノートを書く際に、書き順や字形の指導を繰り返し行い、正しい言葉を使って文を書くことができるようにする。 ・算数の文章問題では、問題場面を想像することが難しいため、具体物を用いたり、ICT機器を活用したりして、視覚からの情報で問題を正確に把握できるようにする。 ・授業の中で発表する場面や、友達と交流する機会を増やし、表現する力を身に付けさせる。
2年	・国語では、助詞や長音、拗音、促音などを正しく使って文を書くことや文章を読むこと、音読をすることが不十分で、基礎的、基本的な学習の定着に個人差がある。 ・算数では、問題場面を想像し、意味を理解して立式することが難しい児童がいる。 ・最後まで話を聞き、大切なことを正確に聞き取ることに課題のある児童がいる。	・日記やノート指導で、正しい言葉を使って文を書くことができるようにする。 ・数量感覚がまだ身に付いていないので、具体物を用いたり、ICT機器を活用したりして、問題を正確に把握できるようにする。 ・自分の考えを発表したり、友達と交流したりする場を設定し、学習したことを活用する力を身に付けさせる。
3年	・漢字の定着が不十分である。また、助詞や拗音、促音、撥音、長音などを正しく文章に用いることができない児童がおり、自分の考えや出来事、思ったことや感じたことなどを文章で表現することに苦手意識をもっている児童がいる。 ・基礎的、基本的な学習内容の定着に個人差がある。特に算数では、2割程度の児童は、既習の学習内容の定着が不十分であるため、新しい課題に対しても自分の考えをもつことが難しい。	・国語では、読書の時間を十分に確保し、様々な文章に触れさせる。家庭と連携し、繰り返し復習することで、基礎的、基本的な読み書きや漢字の定着を図る。また、毎週末に日記等の課題を出すことで、文章を書く力を養っていく。 ・習熟度別学習を行い、児童の実態に沿った支援を行う。また、児童同士が自分の考えを伝え合ったり、助言をし合ったりする活動を設定し、数学的な見方や考え方を広げられるようにするとともに、根拠をもって自分の考えを表現する力を身に付けさせる。
4年	・既習の漢字の読み書きの定着が不十分である。また、作文や記述問題において、日常の話言葉である口語体が文章内に見られる。 ・文字を丁寧に書くことや、まとまった量の文章を書くことに対して、面倒に感じている児童がおり、煩雑に文字を書く様子が見られる。 ・算数の授業に意欲的な児童が多いが、基本的な計算の定着が不十分であり、わり算の筆算や小数の計算において、計算ミスの多さや処理スピードの遅さが表れている。また、筆算の仕組みや分数の基礎といった既習内容の理解が定着しきっておらず、新単元の導入段階や応用問題においてつまずきが見られる。	・短時間で取り組めるミニテストやドリルを朝学習、授業の冒頭などに実施し、既習漢字に触れる頻度を意図的に増やす。また、単に形を覚えるだけでなく、短文作りや日々の振り返りの時間などを通して文脈の中で正しく使う経験を積ませ、確実な定着を図る。 ・1マスに丁寧に書くことや、短い文章を書くなど、スモールステップで達成感をもたせる。「とめ、はね、はらい」が正確で読みやすい文字かを見返す時間をとり、丁寧に書くことへの意欲を高める。 ・一度に多くの問題を課すのではなく、短時間で「できた」という達成感を味わわせることで、計算の正確性とスピードを向上させるとともに、学習意欲を高める。また新単元の導入時には、前学年の既習事項の復習を丁寧に行う。
5年	・基礎的、基本的な学習の定着には個人差がある。特に、漢字の習得場面で定着に差が見られ、文字を丁寧に書くことや文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多い。 ・話す、書くなどの表現力は、徐々に付いてきているが、受け答えが単語や短文になり、要点をまとめて話すことが苦手な児童もいる。 ・算数の学習内容の理解が定着していない。既習事項を用いて解決する思考力、判断力を問う問題に対して苦手な児童が目立つ。 ・どの教科でも、自分の考えを友達のと比較し、考えを広げ、深めていくことに消極的な児童が多い。	・辞書を活用し、漢字や言葉に興味をもち語彙を豊かにしていく。普段から既習漢字を使う意識を高めていく。漢字ドリル等を活用し、日常や家庭学習から丁寧に取り組むことを指導していく。 ・日直のスピーチ、学習のめあてや振り返りを伝え合う機会などを多く設け、経験を重ねていく。 ・算数では、自力解決の場面で既習事項を活用できるように、ドリルやドリルパーク等を用いて、復習したり練習問題を解いたりする時間を十分にとる。自主学習の方法についても指導をしていく。 ・学習形態（個人、ペア、トリオ、グループ）を工夫し、言語活動の充実を図る。考えを比較する視点を示し、伝え合ったり教え合ったりする活動を十分に行い、考えや理解を深められるようにする。また、間違えたり考えが変わったりする過程を大切にできる雰囲気や環境を整える。
6年	・基礎的な学力の定着には個人差がある。特に算数の学習では、下学年の内容の復習が必要な児童がいる。 ・自分の考えを相手に伝えることが苦手な児童がいる。根拠をもって説明したり、筋道を立てて考えたりすることに課題が見られる。 ・自分の考えを表現すること（話すこと）に自信がもてない児童がいる。 ・どの教科でも、友達のと比較し、考えを広げ、深めていくことに消極的な児童が多い。	・家庭学習で下学年の内容を扱ったり、授業の初めに復習する時間を設けたりして、基礎的な学力の定着を図る。 ・話型を示したり、自分の考えを表現するときはその根拠も併せて説明したりすることを習慣付けさせる。 ・少人数（ペア、トリオ、グループ）での意見交流の場を多く設定し、自分の考えを伝えることに慣れ、自信をもてるようにさせる。 ・例を取り上げ、全体でどのように反応すれば良いかを検討したり、上手な児童のやり取りを紹介したりして、相手の考えに適切に反応できる力を付けさせていく。
専科	【音楽】器楽の学習では、楽器を演奏することが苦手な児童がおり、技能の習得に時間がかかる。 【図工】材料や用具の扱いが多様になるにつれて、自分のつくりたいイメージに対して材料の取り入れ方や道具の扱いなどが苦手な児童がいる。	【音楽】技能の習得だけに偏らないよう配慮しながら、練習時間を確保し、個人やペアでの練習など、児童の実態に合わせた指導をする。 【図工】ICT機器を使った動画視聴により、材料や用具の扱い方のイメージをもたせる。手軽に試せる簡単な活動から段階的に進め、表現する楽しさを味わいながら自信をもって意欲的に取り組めるよう指導する。